

令和元年度 研究構想図

学校の教育目標 めあてをもって がんばりぬく 中川の子

児童の実態

- ◇自分の思いや気持ちを、既習表現を使って即興的に「考えながら話す」やりとりが長く続くようになってきた。
- ◇仲間と、英語表現やジェスチャーを使って、積極的にコミュニケーションを楽しみ、英語が好きであると感じている児童が多い。
- ◇アルファベットの音と文字の関係が分かり、それを手がかりに読もうとしたり書こうとしたりする児童が育ちつつある。
- ◇英語でのコミュニケーション活動を多く取り入れることで、その他の活動でも、仲間と積極的に関わりながら活動を進めることができ、仲間と良好な人間関係を創っていくことができる児童が増えた。
- ◇英語で積極的にやり取りができるようになってきたことで、他教科・他領域などでも進んで自分の意見を述べたり、話し合っって考えを深めたりする児童が増えてきた。

願う児童の姿

- ◇児童の必要感に応じて臨機応変に考えながら、自分の本当の思いを伝え合うことができる児童。
- ◇仲間とのコミュニケーション活動を通して、いろいろな表現や語彙を習得するだけでなく、自他のよさや共に学び合うよさを実感できる児童。
- ◇不確かなことを確かめながら聞いたり、知っている英語表現やジェスチャーなどを駆使して話題を広げたりして、コミュニケーションを図ることができる児童
- ◇相手の話を整理しながら聞いたり、相手意識や目的意識をもって豊かな表現で話したり、自分の伝えたいことを読んだり書いたりする児童。

研究主題 主体的にコミュニケーションを図ることができる児童の育成 ～中学校の英語学習につながるコミュニケーション活動の基盤づくりをめざして～

研究仮説

- (1) 学習指導要領に基づき、児童の興味・関心・実態に応じ、他教科・他領域との関連を図った題材の開発・改善を行えば、自ら伝えたいという意欲が高まり、扱う表現にも広がり生まれ、ますます主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童が育つであろう。
- (2) 児童が本当にやりたいと思う、必要感のあるコミュニケーションの目的・場面・状況がある活動を意図的に設定し、相手意識を明確にもつことができれば、即興的に自分の本当の思いを伝え合うことができる児童が育つであろう
- (3) 児童に身につけさせたい力を意識して、個に応じた指導・援助を行い、英語表現に慣れ親しませ、一人一人に合った評価をすれば、自信をもってコミュニケーションを図ることができ、中学校での英語学習の基盤づくりをすることができるであろう。
- (4) 仲間とのコミュニケーション活動を積み重ねていくことで、お互いのことを理解し、学び合いや認め合いができる温かい人間関係を創り出すことができるだろう。

研究内容

I 指導計画の工夫・言語活動の工夫

- (1) 新学習指導要領に基づき、他教科・他領域と関連を図った単元指導計画の工夫・改善
 - ・新教材に基づき、他教科と関連させ、児童が必要感をもち、本物のやりとりをすることができる単元指導計画の改善
 - ・学習到達目標の実現を図るための単元指導計画の配列の見直しと、児童に身につけさせたい英語表現の見直し
 - ・音声で十分に慣れ親しみ、児童のコミュニケーションにつながる「読むこと」「書くこと」を含む、単元指導計画や題材の工夫
- (2) 一人一人の児童が主体的にコミュニケーションを楽しみ、自分の本当の思いを伝えることができる言語活動の工夫
 - ・児童が本当にやりたいと思う必要感のある目的・場面・状況などを意図的に仕組んだ言語活動の設定
 - ・自分の気持ちや考えを即興的に伝え合う場の設定（対話が長く続く Free Talk の設定）
 - ・相手を意識し、伝わる表現や方法を考えながらやり取りをする言語活動の設定
- (3) 児童が学びの成長を実感できる支援と評価の在り方
 - ・自信をもってやり取りを行うための個に応じた手立て・支援の在り方
 - ・児童の学びの成長が分かるトレジャータイムの在り方と評価の蓄積
 - ・パフォーマンステストの内容や評価規準の考察
 - ・児童英検による外部評価の活用

II モジュール (FUN TIME) の工夫

- (1) 楽しく参加でき、実践的な英語を体験できる FUN TIME の充実
 - ・自分のことや身近で簡単な事柄についての基本的な表現に十分に慣れ親しむことができる FUN TIME の活用
 - ・音声と文字のつながりに気付く FUN TIME の番組作り
 - ・「考えながら話す」ための語彙や英語表現の蓄積するための内容の工夫

III 交流活動の工夫

- (1) 英語を使って自分の思いを伝えることができる交流活動の工夫
 - ・海外の姉妹校との継続的な交流活動の工夫
 - ・フレンドリータイムやクラブ活動などでの外国人との交流活動の設定
 - ・既習の英語表現を使って、自分の思いを実際に伝えることができるインターネットによる交流活動の工夫
 - ・日本や外国の文化などの体験的理解や、日本の文化の発信ができる場の設定と活動の工夫

他教科・他領域との関わり

- ・相手意識を持って自分の思いを主体的に伝えることができる言語活動の工夫

学級経営

- ・一人一人が安心して自分の思いを表現でき、高め合える学習集団づくり